

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014年度	インターン番号	TA2006	タイプ	提案型
派遣国	インドネシア共和国			派遣都市	ジャカルタ
受入機関	PT. Astra Daihatsu Motor				
受入機関概要 (事業内容等)	自動車、産業車両、その他各種車両およびその部品の製造、販売等				
派遣期間	2014年12月14日～2015年2月28日				
現在の所属先	PT. METALART ASTRA INDONESIA			当時の所属先	(株)メタルアート
現在の所属部署	PPIC Department (生産管理)			所在地	インドネシア
区分	中堅企業			性別	男

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

現地ニーズの把握と商習慣の理解

海外進出するに当たり、QCD面でよりお客様に満足して頂けるようニーズを理解する。語学も含め、商習慣を理解し現地とのコミュニケーションを図る上での重要点や留意点を理解し、海外事業においてよい提案ができる人材になる。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

車両メーカーの工場にて、操業管理に始まり、部品輸入やモデルチェンジに伴う業務など、現地現物で実務担当者とコミュニケーションを取り、現地ニーズを知った。

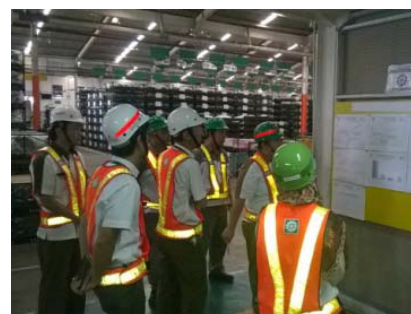
3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

- ・当社現地法人の得意先との人脈作り。ローカル社員の仕事に対する考え方を知った。
 - ・ローカルスタッフと多くコミュニケーションをとり、何事も状況をただ述べたり書いたりする事なく現地・現物で確認し、一つ一つ問題に深く入り込めた。
 - ・受入機関は歴史も長く、ローカルスタッフも自立した仕事が出来ていた。自社の目指す姿として、自ら考え行動し意図することを伝える事の重要性を学んだ。
- また前記達成のために、いかに相手が何を求めているかを考え行動する事で、自身の資質の向上につながった。

インターンシップ風景



小グループでの毎朝会議



安全パトロール

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

インターン終盤には、既にインターン後のインドネシア出向が決まった。

当インターンを経験した事が自信につながり、出向直後から積極的に業務に入り込むことができ、スタッフの生々しい困り事や現場改善を一緒になって始めることができた。

具体的にはごく単純なことが多いが、総じてどの業務にも自分の意志がどうあるかを念頭におき、相手に伝えることが重要であることを学んだ。

- ・ 製品の置き場整流化、在庫管理の見える化（どういう結果を望むのか）
- ・ 短期・中期での生産(在庫)計画（何を管理するのか）
- ・ その他設備の負荷状況の確認手法（どのようなリスクを見ているのか）等々

管理内容は過去より変わらないが、なぜそうなったのか、という観点で相手に伝えることで理解を得るという事が重要であることをインターンで学んだ為、出向後の業務がスムーズに進んだ。

やはり違う言語を使う者同士、また商習慣も違う者同士と一緒に仕事をする為、「なぜ」ということを如何に見える形で相手に伝えるかが重要であると考えようになった。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

体験できる業務内容はそれぞれあるとは思いますが、現職と関連しなくても意味の無いものにはなりません。現地スタッフの考え方、日本との違いを意識して仕事をすると必ず見えてくるものがあるかと思っています。

グローバル人材になるきっかけとしては、この上ない事業です。

海外経験はなくても、言語は後から付いてきます。チャンスを利用して積極的にチャレンジする事で、自身の幅を広げて下さい！